

第2回会議・グループ発表の意見

<会議の運営について>

- ・これまでの説明で、(義務教育学校と小中一貫校の)違いと良さが理解できた。
- ・“義務教育学校ありき”ではなく、坂祝町としてどうするか？
- ・この件については、(どちらにするか)議論を深めて答申すべき。

<教育の方向性について>

- ・“義務教育学校”は不安なので、段階を踏んで進め、まずは“一貫校”から始めてみては…。
- ・事例では、割と少人数の学校が多くてアットホームな雰囲気だが、果たして坂祝町でできるか？
- ・北方町は1,000人規模だが、それがどうなのか実態を見てみたい。大きいほどデメリットが多いのでは？
- ・子どもの成長を考えると、“義務教育学校”の「4・3・2」の区切りが良く、しっくりくる。
- ・坂祝町は、『一小一中』で、小学校の人間関係がそのまま中学校に続くので、中学生になっても変わらないのではないか。

<新施設について>

- ・施設の場所が非常に大事。安全で安心な場所にするべき。
- ・(新しく施設を)造るなら、隣接している方がいい。
- ・新しい施設は、小学校と中学校の校舎の間に、多文化共生室(仮称)があるといい。その部屋は、外国籍児童生徒に限らず、不適應・不登校の子の居場所にもなる。学童保育にも対応し、中学生が小学生の面倒をみることもできる。
- ・現在の小学校・中学校は、(熱中症や外国籍の子の関係で)保護者の送迎が多い。新しい学校は、駐車場を広くするといい。
- ・学校を応援してくださる地域の方々が、学校の様子を気軽に参観できたり、子どもたちとの交流ができるスペース空間を設けるなど、新しい学校の施設面での環境づくりに工夫ができると良い。

<教員について>

- ・小学校と中学校の交流で教師の質が変わり、子どもの見方が変わる。
- ・“義務教育学校”、“小中一貫校”にした場合、教員の働き方改革をどのように見出していくか。小学校と中学校の両方を経験した教員と、そうでない教員の難しさを感じる。
- ・“義務教育学校”は、独自にカリキュラムを作らなければならないので、先生たちの負担になってしまわないか。